



「雪若丸」は適正な葉色を維持することが重要！ 遅れずに、生育量に応じた穂肥を！

◎ 生育概況

「雪若丸」の6月30日現在の県全域の生育は、平年に比べて草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は淡い状況です。

平坦部「雪若丸」の生育（6月30日）

項目	調査値		平年値		平年比・差	
草丈	47.6	cm	42.9	cm	111	長い
茎数	656	本/m ²	721	本/m ²	91	少ない
葉数	10.1	枚	9.8	枚	0.3	やや多い
葉色 (SPAD)	43.6		45.6		-2.0	淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

◎ 技術対策

・直ちに中干しに入りましょう！ ～生育量が少ない圃場は弱めに！～

落水がまだの圃場は、直ちに中干しを行い、無効分げつの抑制と根の活力向上を図ります。地力が低い圃場や生育量が少ない圃場では弱めの中干しとします。その場合は、小ヒビが入ったらすぐに作溝に水が回る程度に入水します。

・穂肥は生育に応じた量を、遅れずに！

穂肥は出穂25日前、窒素成分は1.5kg/10aを基本とします。穂肥の時期が遅れたり、施肥量が多いと整粒歩合が低下し、玄米粗タンパク質含有率が高まります。穂肥は下表を参考にして、遅れずに適量施用しましょう。また、6月中に窒素肥料を補完施用した場合は減肥しましょう。

生育量	茎数(本/m ²)	葉色 (SPAD)	追肥対応※
適正	560～750	40～44	出穂25日前、窒素成分1.5kg/10a
生育不足	560未満	40未満	早めに追肥する
生育過剰	750以上	44以上	追肥量を減らす

※6月中に窒素肥料を補完施用した場合は減肥する

**斑点米カメムシ類多い！
斑点米カメムシ類の発生密度減らすために、
畦畔の草刈りは7月中旬までに終わらしましょう！**